

参加自由
入場無料
予約不要

+PEOPLE 2023+ HIV感染症がつなぐ人々

今に生きる40年の歴史とこれから



2023 12.3 龍谷大学 響都ホール 校友会館
SUN 15:00 - 21:00

photo: Kazuo Fukunaga

ビジュアル・エイズとS/N

《+People 2023+》は、12月3日(日)～5日(火)に京都で開催される日本エイズ学会の市民向け公式プログラムです。アート作品の上映とHIV/エイズの40年の歴史やそこに生きた人たちと出会うことで、HIVについて知り・考え・つながることを目指しています。

ビジュアル・エイズ 短編映像集《Everyone I Know Is Sick》

上映 15:30-17:00

ダムタイプ《S/N》記録映像上映とトーク

トーク 18:00-19:00、上映 19:10-20:30

JR京都駅八条口より徒歩約1分

京都アバンティ9階（店内東側エレベーターをご利用ください）

●ホールへのご入場には整理券が必要です

●整理券は当日15:00よりホールロビー受付にて配布します

●詳細は本チラシP.4をご参照ください



展示と交流 《HIV/エイズ40年の歴史とこれからを知る・考える・つながる》 ホールロビーにて 15:00-21:00

日本エイズ学会 市民フォーラム 各会場のご案内

龍谷大学 響都ホール 校友会館 京都アバンティ9階

《+People 2023+ HIV感染症がつなぐ人々～今に生きる40年の歴史とこれから》

12月3日(日) 15:00-21:00

ホール：定員300席、全席自由席 ロビー展示：どなたでもご覧いただけます。

□ホールへのご入場には整理券が必要です。整理券は当日15:00よりホールロビー受付にて配布します。

整理券の配布は規定数に達し次第終了とさせていただきます。

□ホール客席には80cm×400cmの車椅子用スペースがあります。9階エレベーターからホール客席までの間に大きな段差や階段はありません。その間の移動にお手伝いが必要な方は受付にお知らせください。スタッフができる限り手伝います。

□15:00から19:00までの間のホールへの出入りは自由ですが、その都度整理券をお示しください。

□19:00の《S/N》上映開始後のホール入場はできません。途中退場は可能です。

□ホール、ロビーでの飲食は原則禁止です。水分補給のみ可能です。

□駐車場はビル地下2・3階で有料となっております。

駐車場に対するお問い合わせは「京都市都市整備公社八条口駐車場」までお願いいたします。

市民フォーラム サテライト・Bazaar Cafe 京都市上京区岡松町258

12月2日(土) 11:30-16:00、12月5日(火) 11:30-16:00

通常営業を行っています。市民フォーラムの打ち合わせや待ち合わせなどにご活用ください。

駐車場はありませんのでご注意ください。



市民フォーラム サテライト 京都駅ビル北側駅前広場（中央コンコース前）

12月3日(日) 13:00-15:00

HIV/エイズ、梅毒など性感染症の予防についてのクイズ、保健師等による相談、保健所が実施する検査会場の案内を行います。ぜひお立ち寄りください！

※各プログラムの内容や時間は事前の告知無く変更されることがあります。ご了承ください。

COVID-19 感染予防対策について

館内は換気のできる限り徹底していますが、ご来場の皆様もマスクの着用をお願いいたします。また、発熱や呼吸器症状のある方、新型コロナウイルス陽性の方、並びに濃厚接触者の方のご入場はご遠慮ください。

Photo: Filip Wolak for Visual AIDS



主催：第37回日本エイズ学会学術集会・総会 市民フォーラム実行委員会 協力：ダムタイプ、ビジュアル・エイズ、ノーマルスクリーン、AIDS文化フォーラム 京都、大阪エイズウィークス2023、高柳来未、緒方江美、山本アキヒサ、日本赤十字社京都府支部、青年赤十字社、京都府、京都市、京都府

本市民フォーラムに関するお問い合わせ：日本エイズ学会事務局 03-5561-7171
shimizu@cinage.co.jp チラシデザイン：田中ひとみ

ビジュアル・エイズとS/N+PEOPLE 2023+

ビジュアル・エイズ (Visual AIDS) とは：エイズに関する世界唯一の現代アート非営利団体。アートコミュニティにおけるエイズの影響を記録しようとアート批評家やキュレーターがニューヨークで1988年に設立しました。

ビジュアル・エイズ 短編映像集

《Everyone I Know Is Sick》

上映

ノーマルスクリーンとは 2015年から東京を拠点に主に性的マイノリティの体験を描いた作品を上映しているインディペンデントのプロジェクト。ビジュアル・エイズによる映像集は7年連続で日本に紹介しています。2018年からは毎年京都で《Queer Visions》を共催しています。



ダムタイプ (Dumb Type) とは：京都をベースとするアーティスト・コレクティブ。1984年に京都市立芸術大学の学生を中心として結成されて以来、現在に至るまで日本を代表とするアーティストとして活動を続けています。

パフォーマンス《S/N》とは

ダムタイプが1994年から1996年にかけて世界17ヵ国で上演した舞台パフォーマンス作品。ダムタイプの中心的メンバーであった古橋隼二 (1960-1995) は1992年にエイズを発症し、自身のHIV陽性の事実とゲイであることを友人たちにカミングアウトしました。《S/N》はその状況を背景に制作・上演されました。今回はその記録映像を、作曲家としてダムタイプに中心的に関わってきた山中透のオーサリング (記録されたデータの編集) と音響オペレーションにより、公演当時の臨場感に近い状態で上映します。上映時間約80分。

／トーク／ 1992年の古橋隼二のカミングアウトをきっかけに広がった市民運動に携わった人々のうちからお二人の方に、当時の様子や《S/N》が現在の社会に及ぼした影響について聞きます。

あかたちかこ

[コミュニティ・カウンセラー]



佐藤 知久

[京都市立芸術大学教員]



ブブ・ド・ラ・マドレーヌ

[アーティスト、《S/N》出演者]

／聞き手／

ダムタイプ《S/N》 記録映像 上映とトーク

+PEOPLE 2023+

《HIV/エイズの40年： 歴史と人との出会い、そしてつながる》

HIV/エイズとそれに関係の深い領域で活動してきた関西と北陸地域の市民運動団体がロビーでの展示を企画しました。メモリアル・ドキュメント・アクションの三つのテーマで構成されます。

／メモリアル／

～あなたのことを忘れない

エイズで亡くなられた方々一人一人の人生を遺族や友人が90cm × 180cmの布に縫い上げた《メモリアルキルト》は圧巻です。エイズで亡くなった先達の人となり、思いや願いを感じてください。また、亡くなった家族に向けて薬害エイズ被害者遺族が今の「想い」を綴った冊子《たんぽぽの詩 空に架けるタペストリー》を紹介します。

／ドキュメント／

～HIVがつなぐ人々

1980年代後半から現在に至るHIV/エイズ40年間の歴史を一挙公開。関西の4団体とアーティストが合同で作成した《年表》をこの日にお披露目します。世界と日本国内の動き、薬害エイズに関わる事柄、抗ウイルス薬の変化、主に関西NGOの足跡・道のりを文字と写真で一望できます。また、これらの活動をつくってきた人々と、個別に《インタビュー映像》で出会うことができます。

／アクション／

～今、できること

これからボランティアで関わってみたいけどできるかな？コミュニティセンターって誰でも行っているの？HIVや性感染症の検査ってどうすればいいの？など、最初の一步や疑問に役立つ《情報》が大集合！

展示参加団体：
メモリアル・キルト・ジャパン
NPO法人 ネットワーク医療と人権
NPO法人 CHARM
Bazaar Cafe
MASH 大阪 / コミュニティセンター Qista
北陸 HIV 情報センター
AIDS 文化フォーラム in 京都
ロカボを食べながらHIVを知る会 (HIVカフェ)
PLANET (HIVとともに生きる会)
エイズ・コミュニティ・インタビュー・プロジェクト

「メモリアル・ドキュメント・アクション」というテーマ立ては、1994年に横浜で開催された国際エイズ会議の際にビジュアル・エイズが日本のアーティストや市民団体と共に制作した「エレクトリック・ブランケット」という映像作品の構成と同じものです。今回ビジュアル・エイズへの敬意を込めて使用します。

展示と交流